**それはどういう意味ですか？ 2018 01 21**

**マルコ 1:14-20 牧師　安達均**

キリストイエスの恵みと愛が集まった会衆の心の中に豊かに注がれますように！

熊本への福音宣教の招聘を受けて、さと子と私はプリスクール、復活ルーテル教会、さらに教区の役職を辞職する。いろいろな役職があるが、一つの役職はキリストの愛と慈しみを示す重要な仕事で、さと子が楽しんできたプリスクールの役職、おむつ替え部長。現実問題として、新しくある方が昇進することになったそうだ。

そしてもうひつの現実問題は皆さんと離れ離れになる。私は帰ってくることもあるが、今日の礼拝を持って、もうこの世では二度と会わない方もいると思う。この状況が主にあって、どういう意味があるのか考えつつ、この聖壇に立ち、与えられた福音、良き知らせについてお話したい。

私はルーサー神学校に入学する2004年までの間は、80年代に大学で学んだ工学知識を使ったハードウェアエンジニアとしてとある医療機器の会社に約10年間従事した。その後、ハードウェアのエンジニアよりソフトウェアのエンジニアの需要が高まったせいもあったと思うがエンジニアは辞め、大学に入りなおし経営学を学び、グループ会社の経営の仕事に従事することになった。

1997年夏、20年以上前になるが。同じ会社のアメリカの会社の経営を担当することになった。そのときが復活ルーテル教会に来ることになったはじまりだ。エンジニアでもマネージャをしていても、共通して大切だなと思ったことがある。それは、質問すること、ときにバカな質問でも、質問することが大切だと思うようになっていた。

私は神学校に入ってすぐに、マルチンルターの小教理問答集をすべて暗記しなければならなかった。正直申し上げて、一語一句をもう完全には暗記していない。しかし繰り返し何度も出てきた忘れられないフレーズがある。　”What Does This Mean?”「それはどういう意味ですか？」そしてこの世の人生いろいろなことが起こるなかで、神学校に入っても何を学んででもどんな職に就くにしろ、主にあってそれがどういう意味があるのか自分自身に質問し考えることがとても大切だと思うようになった。

福音書の内容に触れていきたい。イエスの宣教の先駆者として「悔い改めよ」といって登場したヨハネは、イエスの宣教が始まる時には逮捕されてしまい牢獄にいた。しかし、今度はイエスが、ヨハネと同じように「悔い改めよ」といって宣教をはじめており、あらためて「悔い改め」の大切さを覚える。そして、ルーテル教会の日曜礼拝の最初は、いつも罪の告白ではじまることも思い出させる。

ただ、イエスは「悔い改めよ」だけではなく「時は満ちて、神の国は近づいた」だから悔い改めて福音を信じるようにと示唆している。神の国が近づいたということはどういう意味なのだろうか？　この神の国が近づいたという表現は、現在完了形に相当する言い方なので、神が統治する時代がもうここに来ているという意味だ。

そして、与えられた福音書の後半では弟子集めのことが書かれている。今日の福音書箇所だけで、いっきに四人の漁師を弟子にしている。そして四人の漁師たちは網を捨てて、イエスが「人間を獲る漁師にしよう」との招きに応じて、イエスに即したがっていった。これはどういう意味があるのだろうか？

当時ガリラヤ湖の漁の網の技術に工夫がなされ一人の漁師あたり捕獲できる魚の漁が増えすぎて、漁師の数が減ったほうがよかったのか、ということもあったのかもしれない。しかしもっと大切な背景があったのではないかと思う。悔い改めて福音を述べ伝える人々が、もっともっと必要になっていく時代になるのが神の計画だったということではないだろうか。

ではなぜ多くの人々が福音を述べるようになることが大切なのか？　逆に質問するなら、それほど多くの人が必要なほど福音がそんなにすばらしいものなのだろうか？イエスが生まれて私たちの人間社会にやってきた福音、良き知らせとは何なのだろうか？

福音とは先ほども言ったように、今日の聖書箇所ではイエスの言葉「神の国が近づいた」という言葉で表されている。しかし、福音はイエスの福音宣教活動を記述した新約聖書のうち特に最初の４つの福音書の中で、そのあちこちに福音、よき知らせの響きが現れている。

私はここ数年一番好きな聖書箇所はどこだろうか？と考えるなら、マタイ福音書に記述されたイエスの山上の垂訓の中にある、一節をよく思い出す。「父は悪人にも善人にも太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださるからである。」とある。

この言葉には、神が創造したこの世のすべての人々に、神の愛、慈しみが注がれていることが現れている。そしてその主なる神の存在は、どこか遠くにいる存在ではなく、私たちのすぐ近くにいてくださるということもわかってくる。そのことが、イエスが福音宣教の最初に語られた「神の国が近づいた」つまり「主の愛なる統治が、すでに起こっている」ということであると感じる。

今日の福音書の箇所マルコ1:14-20は、私の最後の説教だからとか、今日復活ルーテル教会に招聘する牧師候補者が一人にしぼられたからというわけで、私が選んだのではない。この聖書箇所は最初から決まっていて神が用意してくださっていたもの。いまの復活ルーテル教会の変革期の状況にあって、この言葉が与えられているのはいったいどういう意味があるのだろうか？

弟子たちは網を捨てて、イエスに従ったことが聖書に書かれているが、イエスのほうからもう網はいらないということは一言もいっていない。魚を取るためのハードウェアの網はもう、手放して間違いはなかったのだと思う。

しかし、人間をとる漁師としてはやはり漁師時代に知り得た網のコンセプトはとても大切なのではないだろうか。時代が変わっていって全く異なる網に変わっていったのだと思う。その網とはわたしたち自身、最高の神の慈しみと愛を述べ伝えるキリスト教徒たちが、網となって世界中につながっていることを覚える。

今日をもってさと子と私は復活ルーテルのスタッフではなくなる。そして2月初めにはシカゴでトレーニングがあり、長距離引越し、熊本に移動して、2－3ヶ月後には熊本での宣教奉仕、あるいはオムツ替えの奉仕が始まっているだろう。そのころは、Pastor Bradもここにはいなくなり、Pastor X という方がここにたっているだろう。そのとき、さと子と私は1万キロ離れたところにいる。

しかし、どんなに距離が離れていようが、さと子と私が、皆さんがそうであるように、網であるグローバルチャーチ、アメリカ福音ルーテル教会の一部であることには変わりはない。そして主にあって永遠の兄弟姉妹としてつながっていることには変わりはない、なぜなら、その主がどれだけ距離が離れていようが、また環境が全く違うところに住んでいようが、主がすぐ近くにいてくださるから。アーメン。